

	状態	介護度	入れる施設	入所要件	受けれるサービス	費用	メリット	デメリット
1	元気で生活が自立している 家事炊事買い物等に人の手が必要ない状態	介護度なし 非該当	住居型有料老人ホーム 介護付き有料老人ホーム（自立型、健康型）	なし ※65歳以上など施設によっては要件あり	・食事はたいいてい提供がある ・レクリエーションが充実している場合がある ・見守り、緊急時の対応などの体制がある施設もある ※施設によって特色があり、それぞれ	初期費用0円～数億円 月々15～35万円 ※価格設定が施設によって違うため初期費用、月々の費用に幅がある	・外部の介護サービスを自由に選択できる ・介護保険適用の福祉用具をレンタルできる ・レクリエーションが多彩で日々の生活に刺激がある ・居室は1人1部屋、共用設備が充実自立している人が多く、自由度が高い	・介護が必要になった場合、外部の事業者と契約し介護サービスを利用 ・医療機関は自分で行く ・重度の介護の場合は、住み続けることが難しい ・看取りに対応していない施設も多い ・他の施設に比べると、入居費用・月額費用は高め
	居室の掃除や買い物、通院などの身の回りの世話の一部に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。 外出時に長距離を歩けないので、買物や通院が辛くなっている。							
2	公共交通機関の利用がしづらくなっている	介護度で表すと要支援1～要介護1程度	ケアハウス（経費老人ホームC型）一般型	60歳以上	食事の提供、医療機関との連携、緊急時対応  介護が必要になった場合は外部の介護サービスを利用	初期費用相場が30万円 月々7～30万円 利用者、家族の収入に応じた減額があるのと、施設によっても価格設定が違うため幅がある。	・利用料が安い ・初期費用が安い	・介護が必要になった場合、外部の事業者と契約し介護サービスを利用する必要がある ・サービス内容について施設による差が大きい ・介護・医療サービスが限定的
	身だしなみや居室の掃除などの身の回りのこと何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。 自宅の中でも、移動やお風呂に入るときに手助けが必要 排泄や食事はほとんど自分ひとりで行える 家事など食事の準備が負担になってきている。 長距離が歩けないので買物や通院が辛い 公共交通機関の利用が徐々にできなくなっている							
3	物忘れや時間や季節、今いる場所、人名前がわからなくなる、合理的な判断ができなくなるなどの症状があり、理解力の低下がみられることがある。	介護度で表すと要介護1～2程度	サービス付き高齢者賃貸住宅	※施設によっては要支援1以上など要件がある場合もある	高齢者が安心して暮らせるよう、「安否確認」「生活相談」サービスの提供が義務付けられた、バリアフリーの賃貸住宅  基本的に居室の掃除を含む生活支援、介護等は外部の介護サービスを利用する	初期費用0～数十万 月々10～30万円  価格設定が施設によって違うため幅がある	・自由度が高く、外出、外泊はほぼ自由。 ・居室にキッチン・浴室、洗濯機置き場が備え付けてある ・状況把握や生活相談サービスが必須となっているので、万が一に備えたいという方にはとても良い	・介護が必要な場合には、外部の介護事業者と別途契約が必要 ・運営会社により入居基準や退去基準が大きく異なり、選びづらい（確認に時間を要する） ・身体状況によっては退去が必要になってしまうことがある
	身だしなみや居室の掃除などの身の回りの世話に援助が必要。 外出には付き添いが必要なおことが多い。 排泄、入浴、清潔、整容、衣服の着脱等に一部介助が必要							
4	身だしなみや居室の掃除などの身の回りの世話に援助が必要。 外出には付き添いが必要なおことが多い。 排泄、入浴、清潔、整容、衣服の着脱等に一部介助が必要	介護度で表すと要介護1～2程度	グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	施設と同じ市区町村に住民票がある方  その他、集団生活に支障のない方（身の回りの世話ができる、感染症にかかっていない、共同生活に適応できるなど、施設によって設定）	基本的な介護サービス、生活支援サービスがあり、施設内のスタッフが行う。その他、レクリエーション、受診同行も行ってもらえる。看取りが可能な施設が多い。	初期費用0円～数百万 月々15～30万円  介護保険の自己負担分以外の価格設定が施設によって違うため幅がある	・費用が有料老人ホームと比較すると安い ・認知症を患っていても少人数のアットホームな雰囲気や安心 ・認知症ケアの経験豊かな介護士が常に対応！	・要支援2以上の認定を受けていないと入居ができない。 ・いいなと思ったグループホームが他県の場合、住民票を持っていないと入居ができない。 ・定員が少なく地域も限られているため、空きが少ない。すぐに入居ができず、入所待機期間に数年を要する可能性がある。 ・良くも悪くも少人数なので、入居者全員と仲良くできるには限らない。仮に相性が悪くなってしまっても、調整が難しい。 ・医師や看護師の配置義務がなく、医療ケアには限界があり迅速な対応ができない場合もある。 ・医療体制が充実した施設は少なく、将来要介護度が上がってしまうと、場合によっては退居しなくてはならないことがある。
	身だしなみや居室の掃除などの身の回りの世話が自分ひとりできない。 移動には車いすが必ず必要になっている。もしくは寝たきり状態 排泄が自分ひとりできない。 生活の全般に人の手が必要な状態。							
5	物忘れや時間や季節、今いる場所、人名前がわからなくなる、合理的な判断ができなくなるなどの症状があり、理解力の低下がみられることがある。	介護度で表すと要介護3～5程度	ケアハウス（経費老人ホームC型）介護型	65歳以上 要介護1以上の認定	介護スタッフが常駐しているため、食事の提供や買い物などの日常生活支援はもちろん、通院のつき添いや入浴・排泄補助などの介護サービス、機能訓練などを受けることも可能	初期費用 数十万～数百万 月々16万～20万  利用者、家族の収入に応じた減額があるため	・有料老人ホームなどに比べて初期費用や月額費用が安い ・介護度であれば介護が必要になってもそのまま入居を継続でき、長く住み続けられる ・一人もしくは夫婦の個室が与えられる ・自由に使用できるキッチンはあるものの、食事の提供も受けられる	・要介護度が上がると、場合によっては退去が必要
	身だしなみや居室の掃除などの身の回りの世話が自分ひとりできない。 移動には車いすが必ず必要になっている。もしくは寝たきり状態 排泄が自分ひとりできない。 生活の全般に人の手が必要な状態。							
5	物忘れや時間や季節、今いる場所、人名前がわからなくなる、合理的な判断ができなくなるなどの症状があり、理解力の低下がみられることがある。	介護度で表すと要介護3～5程度	介護付き有料老人ホーム（混合型、介護専用型）	65歳以上 ※介護専用型の場合は要介護1以上の認定が必要	食事、洗濯、清掃等の生活支援、排せつや入浴等の身体介護、機能訓練、レクリエーション、サークル活動などのサービスが受けられ、介護保険制度上の「特定施設入居者生活介護」の指定を都道府県から受けている高齢者施設	初期費用0円～数億 月々15～35万円  価格設定が施設によって違うため、初期費用月々の費用に幅がある	・24時間体制の介護サービス ・医療面のサポートも充実	・他の介護保険サービスを併用できない ・他の入居者の状態によっては馴染みにくいケースがある ・自立であっても介護サービスの費用負担が必要
	排泄、入浴、清潔、整容、衣服の着脱等にすべて介助が必要な状態。							
5	排泄、入浴、清潔、整容、衣服の着脱等にすべて介助が必要な状態。	介護度で表すと要介護3～5程度	特別養護老人ホーム	原則、要介護3以上の認定が必要	生活の介護においては充実していますが医療のサービスはなく、受診等はスタッフが連れて行ってくれます 部屋は個室、多床室（大部屋）があり、個室はコストが高い。 基本的に終身の施設のため看取りなど体制もある	初期費用0円 月々6～15万円  本人、家族の所得によって減免される制度が利用できるため月々の費用に幅がある	・一時金の初期費用がかからない ・介護スタッフが24時間常時しているのでも常に適切な介護が受けられる一度入居できると長期に渡り入居可能で終身まで介護を受けることができる ・特別養護老人ホームは公的な施設なので民間の企業と比べて倒産のリスクが少ない	・要介護3以上しか入居できないので入居基準が厳しい ・地域によっては入居まで時間がかかることがあり待機することがある ・24時間の看護師が義務づけられていないので医療対策に限界がある